

①世田谷らしい空き家等の地域貢献活用モデル

公開審査会(平成 26 年 10 月 26 日(日)／三茶しゃれなあどホール)

②世田谷らしい空き家等の地域貢献活用モデル 追加募集

審査会(平成 26 年 12 月 16 日(火)／北沢タウンホール)

審査委員のコメント及び講評

1. 採用団体の企画への審査委員のコメント(採用決定前)

以下は、上記①、②の空き家等の地域貢献活用モデル審査会における各団体のプレゼンテーションと質疑応答の後、モデル採用の決定前に、各審査委員が発言した各団体の企画に対するコメントを発言順に掲載しています。

(1) 特定非営利活動法人にじのこ

■実現性・継続性について

○小林委員長

- ・既に事業を実施しているため、実現性は問題ないと思われる。
- ・継続性については、1日8人来れば運営が成り立つということだが、それくらいの利用者は見込めるのではないか。

○坂倉委員

- ・児童発達支援の事業だけで成り立たせる必要はないと思う。
- ・専門サービスを提供するとなると、利用者の安全性を守らなければならないが、逆にそこだけを一生懸命にやってしまうと、どんどん地域から閉じて、関係者には認知されるけども、それ以外の人との接点が広がらないことが起こりえるだろう。何かひと工夫できると更に発展しそうな気がする。

○小林委員長

モデル事業に採択されればPR効果がある。1日8人以上行く可能性は高くなるのではないか。

■地域貢献度について

○服部委員

発達障害の有無に関わらず、集団生活が苦手な子どもたちは少なくないと思う。そのような子ども達一人ひとりをどのように見ていけば良いのかということについて、みなさんは長けていると思う。普通の教室に行くけれども落ち着きがない子どもたちがどこの学校にも、どこのクラスにもいる。そういう一般の子どもたちを見てあげる、アドバイスしてあげる、応援してあげるようなことに、この場所とみなさんのスキルが活かされると、地域貢献度はますます上がるのではないか。そのような子どもを預かることで収入が得られるのであれば、継続性も高まる。

○小林委員長

私の研究室で知的障害者が暮らす住まいについて、7～8年前から事業を検討している。一部実現しているが、時々近隣の理解が得にくいことがある。しかし、今回は幼児に限定していて、土日は休みということである。その辺は今までの経験から配慮されていることがわかり、懸念がなくなった。

○春日委員

地域の理解を得るためにも、土日の施設利用や、区とも連携しながら他の地域の団体とも少しずつ繋がりながら進めていただきたい。

■モデル性について

○春日委員

昨年度は、集合住宅の空き室と、一戸建ての空き部屋の活用の応募があった。今回は一戸建ての住宅を活動の拠点としながら、地域に貢献する事業を展開するということで、これまでとはタイプが若干異なる。モデル事業として意義があるものとする。

○坂倉委員

企画は素晴らしいと思う。モデル性で言うと、全国では初めてではないにしても、民家を児童発達支援施設に再利用していくことは、メインストリームではない。そういった意味では非常にモデルとして貴重な取り組みである。ただ、少し欲を言うと、この事業で始めてトライするものがあってほしいと感じる。実直にサービスを提供しようとする、今のプランで問題ないが、実はもっとたくさんの可能性があるのではないかなと思う。いろいろな人が地域で巻き込まれていくとか、お金ではなくネットワークがあり、そのネットワークがあるからこそ、自分達の事業がより豊かな質を提供できるようになる。そのように発展するためには、最初の段階でこれまでにない何か新しい要素が入っているといい。例えば、全く違う分野の人と連携をして、ものごとを始めるなど。それによってこれまで絶対こういう場所には来なかった人が訪れるようになったり、全然手伝ってもらえると思ってなかった人が、手伝いに来てくれたり、地域の巻き込み力がどんどん広がっていくことが、きっとあるのではないかな。最初からでなく、主の事業が安定してからでも良いと思う。夜間、土日が空いているのなら、地域の方が飲食できる場にするなどしてもいいのではないかな。そういったところから、もしかしたら全然違う回路で地元に対する理解が増えたり、相談が舞い込んで来たり、そんなことが起こる気がする。もう少し発展できたらいいと思う。

○小林委員長

発達障害児の居場所を地域に開くことそのものが、すごくモデル性がある。全国で恐らく殆ど例がないと思う。まち縁側と発達障害児の居場所、これをリンクさせる。それだけでも、成功したら相当のモデル性がある。

■費用対効果について

○服部委員

いろいろな可能性を探っていくのであれば、200万円を有効に活用される方がいい。将来的にカフェにしたいと思ってカウンターバーを作るとなると金額も大きくなる。どこからお金が出るのか、ということにもなる。自分たちがやってこなかったことを突然やることとなると、もっとリスクが高くなる。できるだけお金のかかる建物の改修でどう助成金を使うのか、可能性は何があるのか、といったところを今一度お考えになって200万円の配分を、区と相談されながら決めていった方が良い気がする。例えばパソコンよりも必要なことかあるのではないかと本心では思う。できるだけ建築面のこと、建物に関するものに助成金を使った方が良いのではないかと。そうすると費用対効果があると思える。

○小林委員長

まちの縁側をつくるということだから、うまく設計してほしい。そうすれば非常に効果があると思う。

○松村委員

テーマがまちの縁側といているが、テラスがどちらかという隣地側を向いている。もう少し道路側に開くようなテラスになるといい。お金をかけるのであればもう少し工夫ができれば尚いいと思う。

■追加コメント

○春日委員

烏山地域の方が、子どもの時から大人になっても同じ地域に暮らし続ける。そういう活動をされていることが非常に素晴らしいと思う。烏山は様々な地域活動があり、地域の力が非常にあるところである。みなさんの活動を知らないことによる反対があるかもしれないが、地域の理解を得ながら、ぜひ地域の資源、人の資源をうまく引き出し、繋がりながら進めていただきたい。

○服部委員

幼児から大人になるまで地域で過ごせるということが素晴らしいと感じた。ただ、言うは易しだが、障害を持った人と持っていない人が、どうやって接点を持ち、障害を持った子が自信を持って地域で居続けられるのかといったところに、これまで実績を持っているので、そのあたりを社会に知らせてほしい。

○坂倉委員

審査員の先生方から高い期待が寄せられている。それくらい可能性のある事業だと思う。今こうかな？と思っていることに囚われずに、もっと広い可能性をいろいろな人を巻き込んで探求してもらえるといい。

○松村委員

こういった性格の施設をまちの方が少し気配を感じてくれるなど、戸建てだからいろいろできることがある。そういった視点が素晴らしいと思った。

○小林委員長

家賃は市場価格だと思うが、もう少し金額を下げてもらえるといいと思った。これは今後の課題だと思う。

(2)一般社団法人凸凹Kids すぺいす♪

■実現性・継続性について

○松村委員

東京都の補助を受けられるということなので問題ないと思う。

○坂倉委員

常設の場づくりと、これまでの週一回の教室というのは、かなり仕事の質と量が変わってくる。これまでの活動は四人で運営できたが、毎日になってくるとまた違った問題が発生する。施設管理も含めて全部やらなければならない。その辺で疲れてしまわないか心配である。できるだけ無理をせずに最初から土曜日までやろうなどと思わずに、少しずつできるような体制をとった方がきっと結果的には長く続くことになるのではないかと。

○服部委員

- ・試行錯誤がしばらく続くのではないかと感じる。東京都の施設の基準は最低限のものだから、それを基準にせずに自分たちならではの基準を作ってマネジメントをしっかりと想定された方がいいのではないかと。
- ・もし、東京都から給付金が得られなかったら場所を変えてでも事業を行うと発言を受け安心した。

○春日委員

代表者が仕事を退職されて、ここの活動に専任という形で入るということなので、継続していけると思う。

■地域貢献度について

○松村委員

買い物体験のワークショップなど、地域で暮らせる支援活動、生活圏の学習。単に預かるだけではなく、まさに生活自立を支援していく考え方は素晴らしい。ただ、近隣の方々も理解をしていかないと、地域で暮らしていくことは難しいと思う。ぜひそういうところまで踏み込んで、取り組んでいただきたい。

○坂倉委員

障害のある子ども達がまちの中にある場所、家以外に居る場所があることは本当に大事なことである。どんどんやっていただきたい。ただ居場所を作ろうとすると、多くの場合、安心な場を目指そうとし過ぎて、関係者以外は入れない閉じた場所なることもある。その場所でもいいことはできるが、地域に繋がらなくなってしまうケースもある。お店を使うことはとても可能性がある。単に見えるだけでなく、生活スキルを高めるのであれば、お店ならお店として活用してもよいのではないかと。文房具を売ってもいい。本当のお店ではなくとも、お店っぽく作れば起こることだって変わってくると思う。ここに通う子どものお母さんたちだって、子どもが普段いるあそび場でお茶を飲むのもいいけど、お店っぽいところであればより寄り寄りしやすい。この条件をいかに地域の人を巻き込めるきっかけになるかというふうと考えていくと、すごく可能性はある。逆に言うとまだそこまで想像が届いていないような気がする。その辺を少し考えてもらえると、とてもいい。

○服部委員

障害の度合は様々なため一概には言えないが、今、子どもたちはいろいろな学校行事によって交わることに慣れてきていると思う。しかし、それが学校の外で続かないところが非常に不思議に感じている。たくさんの児童がいるところではなく、落ち着くところが必要だから、対象者は障害を持つ子たちだけという考え方もあるかも知れないが、普通のクラスにいたっていろいろな問題を抱えている子もいっぱいいる。どう工夫したらどちらの子たちも、一緒になって混じってやれるのか工夫できないか。そこは目標であり、常に考えていただきたい。子どもたちを受け入れる場所というだけでも社会貢献と言えるが、今、地域の中で求められているは、その一歩先ではないかと思う。そこまで進んでくれるとモデル性が高くなると期待している。

○春日委員

芦花公園では、NPO 法人が元気な子ども達と一緒に花壇管理をやっている。そのように全部自分たちだけでやるのではなく、連携をしながらやっていくと、プログラムが豊かになるなど、いろいろな可能性が広がる。地域のワークショップに参加するなど、他の団体とうまく手を繋いで、ネットワークが広がってほしい。

○坂倉委員

お店を放課後デイサービスにすると、どんな可能性があるのか。その可能性を示すことが、この空き家活用モデルの趣旨であると思う。機能的に満たされたデイサービスが1か所できたというだけでは、少し物足りないと思う。お金の使い方も同じで、200万円の助成金をテーブル、パソコンに使うのであれば、もっと別の助成金があるのではないか。この空き家活用事業だからできることに使ってほしい。例えば放課後等デイサービスなのに喫茶店っぽくなったとか、演台を作ったとか、文房具屋さんごっこができる何かを作ったなど。しかも地域の木工ができる人と一緒に作られるといい。そういうお金の使い方ができるとより楽しいし、より変わっていくのではないか。ひと工夫できるのではないかという気がする。

■費用対効果について

○服部委員

備品の内容は他にも助成金で得られる可能性はあるが、例えばトイレを作りたいと思っても改修工事にお金を出すような助成金はなかなかない。継続してやっていこうと思うのであれば、この機会にきっちりと、完璧な快適に過ごせる魅力的なハードにお金を費やされた方がいい。例えば自分たちで作れそうな下駄箱と一緒に作れば一つのイベントにもなる。教育的なことをされるNPOや、それに類する公益法人にパソコンを差し上げますというプログラムもある。そのため、その分は整備に充てられるとよいのではないか。

2. 各審査委員全体講評

以下は、モデルの採用決定後、各審査委員による全体講評です。

(1) 特定非営利活動法人にじのこ

○春日委員

世田谷まちづくりファンドという制度も活用していただき、地域の方と一緒に手を上げて取り組みながら、より幅の広い支援者あるは協力者、あるいは事業参加者との関係を作っていただきたい。地域の拠点という部分で土日や夜間の活用、できれば地域の方に使っていただき、そういう中で新しいネットワークが生まれることを期待しています。

○服部委員

引き続き活躍を期待している。今回良いモデルを出していただいたと思っている。民家をどんどん活用できたらすごく良い。こうやって通学路があるところに空き家があるよりは、子供達が賑やかにしている方が、文句はあるかもしれないが地域にとっては大事である。そして小さいお子さんから、大きなお子さんまで、拠点は違うが預かることができるということは、地域の安心になる。その役割を今も感じていらっしゃると思うが、ぜひ思いを新たにしていきたい。テラスの改修については、車が乗り上げても潰れないウッドデッキがあるかもしれない。そのようなことができれば玄関先まで全て木で埋めることもできるのでは。工夫ができればと思う。

○坂倉委員

ぜひお行儀よく収まらず、いろいろなことにチャレンジしてもらえるといい。どうせもらえるお金。失敗しても良いとは言わないが、自己資金では絶対できないようなことにチャレンジできるチャンスだと思う。どの分野、どの業界にも言えるが、一生懸命考えて自分達で作った企画というのは面白くない。面白くないと言うと語弊があるが、自分達で作った企画というのは自分達の今の現時点での状況、常識の反映である。この事業、この企画というのは、今の常識を更に超えていくものを作っていく、未来を作っていく、そのトライの資金だと私は思っている。今みんなが良いと思うものは、もしかしたら 10 年後は非常に良くないかもしれない。今これを言ってバカだって言われる、あるいはそんなのあり得ないと言われることも 10 年後、常識になっているかもしれない。今の企画が今の常識、更にこれを越えていくような企画にしていく、そのための機会としてこのチャンスを生かしていただければ本当にこれ以上のことはない。

○松村委員

なかなか地域へ開くのは難しい施設を地域の幼稚園、学校とも情報交換しながら、進めている点が素晴らしい。空き家活用という視点でいうと、活動しているが場所がなかなか見つからないと悩んでいる方もいっぱいいる。今回の条件は立地もよく、建物も比較的新しい。オーナーのご理解もある。そういう恵まれた条件の空き家に巡り合えた。今後も、活用しながら更に地域の良い拠点に育っていくことを期待している。頑張ってください。

○小林委員長

大変意義深くかつ価値がある活動であるため、採用されて良かったと思う。4つの審査基準に沿ってどのような意見が出たかまとめると、実現性・継続性という視点については、実現性は問題ない。継続性については費用が今後ずっと賄っていただけるかどうか、疑問が出ていたが、この団体はここだけではなく、他にいろいろな事業をされているため、団体全体として資金を回していけば十分継続性はある。更に一日8人以上来れば十分運営していただけることから、それに向けて頑張っていた。

地域貢献度が高いことについては、審査員のみなさまから地域との交流とか、地域の拠点づくりに向けていろいろ頑張してほしいと意見があった。その一方でこの発達障害の方の居場所そのものが、どうしても地域に開きにくい性格を持っている。その中で、地域に少しでも開くことができれば、それは大きな成功ではないかという評価もあった。総じて今後への期待が高い。

費用対効果については、むしろこの補助金を有効に使って少し改修の方法を考えていただきたい、より地域貢献らしくしていただきたい、ということで有効に使ってほしいという意見があった。

最後に今後のモデル性については、去年の3つの事業と違って今回は新しい戸建てを使った事業ということでは初めてである。そういう意味ではモデル性がある。また、発達障害児の方は世田谷区だけではなく全国的に多分増えている傾向にある。その方の居場所を住宅地の中につくるということ、そのものがモデル性がある。ぜひこれが定着して今後、他の住宅地でも障害児の方の居場所づくりが抵抗なく受け入れられる社会風土ができていけるといい。総じて大変社会的意義が高く、空き家活用としても非常にモデル性があるということで高い評価を得た結果、全員賛成で採用となった。

(2) 一般社団法人凸凹Kids ^{でこぼこ} すぺいす ♪

○坂倉委員

ぜひ、他にはないような、放課後デイサービスを目指していただきたい。お金がもらえるメリットの他に情報発信のバックアップをトラまちさんからしてもらえるとと思う。そこで単に普通の障害児が集まる場所というよりも、物件の条件を活かした特徴があるところというふうになった方が、お母さんも喜ぶでしょうし、来る子たちも喜ぶと思う。できるだけ、あまり無理せずに、だけど遠くを見据えて活動していただけるといい。

○服部委員

発達障害の子どもたちを何とかしたいという活動が、ここ数年ものすごく増えていると、審査に関わっていて感じる。その中でもいろいろあるが、長年付き合っている団体はどうやったら障害を持つ子どもたちの良さを引き出せるかという発想で支援をしている。何々ができるようになるというよりも、その子どもたちのこんな面白いところを見つけてあげることができた、ということを目指していただきたい。なかなか親御さんはそういう発想になれないと聞いているが、そういう考え方があってもいい気がする。普通に子育てをしている人達もみんな悩んでいるところがあって、この拠点に聞きに行けばいろいろなノウハウがあって相談できるという場所なるといい。子供たちのことを障害という概念で決めるのではなく、それぞれに悩みと良さ両方持っているため、そこを真正面から取り組んでいただきたい。せっかく入りやすいスペースであるため、広く開いていくことを目標にしていけるといいと期待している。

○松村委員

商店街の外れではなく、商店街のど真ん中に拠点があれば更によかったと思う。お店みたいなものを作るのもいい。商店街の方がこの施設との関係を持ち上手くつながりながらやっていける様な仕組みができてくるといい。今後、ユニバーサルデザインスタイルの普及していくためのいろいろな広報をしていこうと考えている。その中の良い事例としてご紹介できればありがたいと思っている。そのような面でも今後連携をしていきたい。

○春日委員

トラストまちづくりの「地域共生のいえ」の中にはボランティアの方と協力して運営しているところもある。そのような事例をぜひご覧いただき、先人達がやってきた良いところを上手く取り入れて、ぜひとも頑張っていたきたい。

○小林委員長

今回は空き家活用のモデル事業の中でも、かなり実現の可能性が高い整った内容であったことから、安心して選択できた。今後、この拠点に空き家活用のモデル性がどの程度あるかということが、活動の中身として期待されるだろうと思う。一方で児童発達障害の子供たちが地域の中で少し理解されないという問題が実際にはなくはないと思う。私の研究室では知的障害者のシェアハウスをやっているが、なかなか一般の方の理解を得るのが簡単ではない。

むしろ、地域に開くなどそういうことを通じて偏見もなくしていく、あるいは上手く交流が進むようになると、本当に商店街の中でのモデル事業と言えらると思う。

以上